

看護未来塾第2回勉強会企画

【テーマ2】現在の実習は人々の健康と生活を支える力を育てているか？

【担当者】秋元、井上、岡谷、片田、酒井、高田、田村（五十音順）

【企画の意図】

このテーマを企画した理由は、今の看護教育は、超高齢化社会において起こると予想される社会的課題や人々のヘルスケアニーズの変化に十分に答え、人々の健康と生活を支援できる看護職を育てているだろうかという思いからである。

国は、急速に進行する高齢化に対応するために、約800万人の団塊の世代が75歳になる2025年を目途に、高齢者ができる限り住み慣れた自宅や地域で、自分らしい生活を人生の最期まで続けられるように地域包括ケアシステムの構築を推進している。医療提供体制においても、高齢化や疾病構造の変化を受けて、「病院完結型」から地域全体で治し、支える「地域完結型」への転換が進められている。

このような政策転換の中で、保健医療分野の最大のマンパワーを供給する看護教育の変革は喫緊の課題であると考えます。超高齢化、少子化と人口減少、疾病構造の変化、多様な価値観、健康格差、コミュニティの脆弱化など様々な社会的課題から生じる人々の健康課題や健康破綻の解決に向けて、どんな看護実践力を有する人材を育成していかなくてはいけないかということ、私たちはきちんと共有できているだろうか。今の、「医療モデル」による入院患者の看護や患者の病態のアセスメントを中心とした看護教育は、果たして社会が求めている看護職を育成しているのだろうか。

今回の勉強会では、人々の生活の場である自宅や地域で看護ケアを提供することを広く在宅ケアと捉え、在宅ケアという切り口を通して今の看護教育が抱える課題は何かを明らかにし、課題解決の方策について考えてみたい。

このテーマのタスクフォースとして、20年後、30年後の社会や人々のヘルスケアニーズを想定し、人々の健康と生活を支援する力を育てる看護教育のあり方を、看護教育制度、教育の内容、教育の質の担保、教員の課題といった視点から一つひとつ取り上げ、現在の課題を明らかにし、課題解決に向けた実現可能な解決策を考えていきたい。

【分科会の流れ】

14:25～14:30 企画の主旨説明（片田）

14:30～15:00 話題提供（岡谷、井上）

15:00～15:25 ディスカッション